

●柏市地域公共交通網形成計画（短期施策）進捗状況一覧

施策概要	指標	指標の説明	検証の方法	目標値	策定時	H30年度	R1年度	その他実績・今後の方向性
A. 公共交通軸の強化	● 柏市内のバス運行本数	施策の実施状況を運行本数の推移、施策による効果を利用者数で継続的に施策の状況を確認する。	バス事業者より提供されるデータ、資料より整理する。	3,500本/日以上	3,503 本	3,581 本	3,590 本	・利用客の状況を考慮しつつ、パターンダイヤの検討等、利便性の向上に努める。
	● バス利用者数			約1,890万人/年以上（現況よりも5%以上の利用増加を図る。）	18,000,000 人	18,535,880 人	19,769,838 人	
B. 企業バス等との連携検討	● 企業バス等と連携した地域数	施策の実施状況として連携した地域数を把握する。	企業バスとの提携、運行状況を整理する。	企業バス等と連携した地域数：4地域（北部・中央・南部・東部で連携する。）バス路線と重複しないルートを行う企業バスと連携し、市内各地域（北部・中央・南部・東部）の移動手段確保を図る。	なし	なし	なし	・東大シャトルバスが自動運転の実証実験を開始 ・各企業バスの運行状況の整理し、周知等の検討をおこなう。 ・空白不便地域の移動手段を確保するための1つの手段として検討
C. コミュニティ交通の運行形態見直し	● ジャンボタクシー利用者数	施策の実施状況をコミュニティ交通の利用者数から継続的に確認する。	コミュニティ交通事業者より提供されるデータ、資料より整理する。	コミュニティ交通利用者：約52,400人/年以上（現況よりも5%以上の利用増加を図る）	41,135 人	40,990 人	39,497 人	・沼南コースの再編 ・利用状況、需要を分析し、各コースの見直しを図る ・11/1から運行エリア拡大予定
	● カンワニクル利用者数				8,766 人	9,881 人	9,663 人	
D. 公共交通空白不便地域における対応策の検討	● 公共交通空白不便地域の圏域	公共交通の導入による公共交通空白不便地域の変化を把握する。	バス事業者、鉄道事業者などより提供されるデータ、資料より整理する。	圏域：24.3%以下にする 可住地域内の公共交通空白不便地域解消を目指す。	24.3 %	24.3 %	24.3 %	・アンケート結果を基に地域へのヒアリングを行っていく ・地域主体での運行を目指す
E. 駅前広場の乗換環境整備	● 駅前広場の乗換え環境整備	施策の実施状況として整備事業数を把握する。	駅前広場の整備状況から施策の実施状況を把握する。	駅前広場の待合環境整備駅数：3駅 ※市内全駅で上屋、ベンチ等を整備する。	未整備 上屋は2駅で整備済	未整備 上屋は2駅で整備済	未整備 上屋は2駅で整備済	・9/24に柏駅東口バス停付近にベンチを設置（試験的）した。 ・今後、利用状況等を見ながら設置箇所を増やしていく。
F. ICTを活用した情報案内の実施	● ICTを活用した情報案内板の整備数	施策の実施状況として整備事業数を把握する。	情報案内板の整備数から施策の実施状況を把握する。	情報案内板の整備数：4個	3 個	3 個	3 個	・ジャンボタクシーのバスロケーションシステムを変更した。 ・情報案内板のみに限らず、運行情報の周知について進める
G. 車両バリアフリー化の促進	● ノンステップバス導入率	ノンステップバス、ユニバーサルデザインタクシーの導入台数を整理することで車両バリアフリー化の状況を把握する。	バス、タクシー事業者より提供されるデータ、資料より整理する。	ノンステップバス導入率：90%を目指す	87.1 %	87.2 %	87.2 %	・利用しやすい車両の導入について、引き続き促進していく。
	● ユニバーサルデザインタクシー導入率			ユニバーサルデザインタクシー導入率：3%を目指す	3.0 %	7.2 %	10.9 %	
H. ショットガン方式のタクシープール導入	● タクシープールの導入 柏駅東口交通広場外の客待ちタクシー台数	柏駅東口における円滑な交通流を阻害する客待ちタクシーの状況を把握する。	柏駅東口でのショットガン方式のタクシープール導入に関する状況を整理する。	柏駅東口交通広場外の客待ちタクシー台数：0台 社会実験の結果を踏まえ、恒久的に利用出来るタクシープールを導入することで、交通広場外のタクシー待機列解消を図る。	-	-	-	・柏駅東口交通広場のあり方も含めて検討していく。
I. 公共交通の周知施策	● 周知施策実施状況	周知活動から施策の実施状況を把握する。	市による周知施策を整理する。	バスマップ配布：2万部	20,000 部	20,000 部	20,000 部	・利用者目録でのマップ作成を継続して実施していく
				小学校でのモビリティマネジメント教室の実施：全校	- 校	6 校	6 校	・小学校2年生を対象にバス乗り方教室を実施した。 ・継続して実施していく。
自動車交通から公共交通への交通手段の転換による効果	● CO ₂ 削減量	施策の実施による効果として、自動車交通から公共交通に転換した場合の効果を示す。	立地適正化計画「施策・誘導方針3：居住地と拠点地域を結ぶ利便性・効率性の高い公共交通網の形成」または「柏市低炭素まちづくり計画」を参考に整理する。	CO ₂ 削減量：6,632t-CO	なし	-	-	「柏市低炭素まちづくり計画」にて数値未集計
交通体系や交通環境の整備による総合評価	○ 柏市の住みやすい理由として「公共交通機関の充実」と評価している割合	施策実施に関する総合評価として把握する。	柏市民意識調査を用いて整理する。 （「柏市地方創生総合戦略」での結果を考慮する。）	評価割合：40%	32.2 %	30.6 %	32.1 %	